

令和5年度

半田小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎基本の定着を図る学習方法の改善
- ②わかる・できる・楽しい授業を通して、自ら考えてみようとする児童の育成
- ③進んで学習に取り組む児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 教頭:西谷繁人
	特別支援コーディネーター:竹田明美
	低学年推進員:古川 香菜
	中学年推進員:三宅 紀美代
	高学年推進員:谷 優薫
教諭:森 由里	

校長

猪子 研司

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○既習漢字は正しく読むことができる。 ○正確に視写をすることができる。 ●文章を正確に意味理解し、読み取ることに課題がある。 ●言葉のまとまりや助詞に注意して、読んだり、書いたりすることに課題がある。	・学年配当の漢字が9割以上読め、8割以上書けるようにする。 ・学年相当の計算スキルを身に付ける。 ・既習した漢字や計算を日常生活の中で生かすことができる。	・小テストや確認プリント、視写(低学年)を定期的、反復的に行い、基礎基本の定着を図る。 ・チャイムと同時に授業を始め、45分の授業を大切にす。 ・本時の学習のめあてと、ふり返りの時間を確保する。 ・主述や助詞等に気をつけ、自分の書いた文章を読み返すことを習慣づける。	・これまでの方策を継続する。	・ふり返りの時間があまりとれず、自己改善につなげられていない。 ・書くことに重点をおき、読み返す段階に到達できていない。 ・チャイムスタートについては、概ね達成できている。	・小テストを実施し、スモールステップで取り組む。 ・授業の最後に、短時間でも、本時の授業の振り返りの時間をとる。 ・日常生活の中での、活かし方を充実させる。 ・低学年では、ペア学習などを取り入れて、自分の書いた文章の間違ひを見つけられるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対しては意欲的に取り組むことができる。 ●話を聞くことに課題があり、集団の中での思考が深まりにくい。 ●自分で考える習慣がついていない。つまり、自力解決に至らない場合が多い。	・話をしている人の方を向いて最後まで傾聴することができる。 ・自分の考えを持ち、比較できる。 ・図、絵、言葉、式を使って自分の考えをわかりやすく表現しようとする。	・聴く時のルールを決め、学校全体で共通理解し、日頃から意識させる。 ・簡潔で分かりやすい発問をする。 ・図、絵、言葉、式を使い表現する方法を教えたり、良いモデルとなる子のノート等を提示したりしていく。 ・「書く」「話す」場面を設定し、自分の考えを深めたり、表現方法を工夫したりできるようにする。	・これまでの方策を継続する。	・簡潔で分かりやすい発問ができている。 ・よいモデルとなる子のノートを提示できている。 ・知識・技能の習得に時間を要しているため、自分の考えを深めたり、学習したことを活用したりする状況にまで至っていない。	・傾聴できる児童を育てられるよう、粘り強く指導を継続していく。 ・各自意見を持っているが、全体に広める児童が少ないので、グループやペア学習を多く取り入れる。 ・スピーチや日記の文型を決めて、それに沿って話したり書いたりすることができようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味のあることや自信のある内容には、一生懸命取り組む。 ●授業中、解決の方法を色々な角度から考えようとする意欲は十分でない。 ●自分の苦手なことを見つけたり、学習を深めたりする自主学習ができていない。	・直面した課題に、主体的に粘り強く取り組むことができる。 ・進んで読書に取り組むことができる。 ・辞典やICTを活用し、工夫して課題解決しようとする。	・授業の見直しを立てる。 ・テストの予定を児童に知らせ、見直しをもたせ、自ら計画的に自主学習を進めさせる。 ・教師が、授業のふり返りをし、次時にいかす。 ・読書カードを活用し、読書量や傾向を可視化させる。 ・読書環境を整え、時間を設定し、図書の本を週1冊は借りるように、習慣付けをさせる。	・これまでの方策を継続する。	・具体的方策は、概ね達成できている。 ・読書環境は整えられているものの、上学年に行くに従って、読書量は少なくなる傾向にあり、毎週1冊の本を借りることができなかった。	・苦手分野を克服しようとして、自主的に学習しようとする姿勢は育っていないので、継続して指導する必要がある。 ・本を借りに行く時間を、週時程に組み込む必要がある。

令和5年度 学力向上ロードマップ

